



人の存在が風景の感じ方に与える影響 ～パーソナリティによる違いを中心に～

Influences of human presence on landscape preferences
-Focusing on personality differences-

景観研究/論文

地域キュレーションコース

大貫 瑛江子

Onuki Saeko

研究目的

既往の研究から観光体験の質に人の多さが関わってくることや、混雑感が風景評価に影響を与えることが知られている。また、パーソナリティによって観光に求めるものも異なっている。本研究では、実験的手法を用いて、人の存在が風景の感じ方に与える影響と、パーソナリティの違いによる人の存在する風景の感じ方の差異について明らかにすることを目的とする。

方法

質問紙実験を実施するため、風景評価と混雑感評価およびパーソナリティ測定に関する質問と個人属性項目を含んだ質問紙を作成した。対象地を高岡古城公園に設定し、眺め型と通り型の2タイプの風景において、それぞれ人がいない状態、人が少しいる状態、人が多くいる状態の写真を作成し、「好ましさ」「混雑感」「不快感」「訪問意向」を測定した。パーソナリティについては、「日本語版 Ten Item Personality Inventory (TIPI-J)」を用いて測定した。被験者は富山大学の学部・大学院生 118名である。

結論と考察

パーソナリティをもとにクラスター分析をおこなったところ、被験者は3グループに分けられた。二元配置分散分析の結果、眺め型、通り型のいずれにおいても、各測定項目で「混雑度」による影響が認められた。また、「通り型」の方が、混雑度の違いが風景の感じ方により強く影響する傾向があった。一方で今回の調査では、人の存在する風景の感じ方にパーソナリティの違いによる影響は認められなかった。被験者の属性が比較的均質であったため、パーソナリティ自体に大きな差異が生じにくかったことが要因と考える。